

無足場工法による 外裝修繕工事

東京外装メンテナンス協同組合 (TEC)

理事 茂木 健一

vol. 11 塗装面の外壁調査

前号まで、外壁建材であるタイルやシーリングの補修方法をお伝えしました。今回は、塗装工事についてご紹介したいと思います。

そもそも塗装とは、文字どおり装飾した物体に塗料を塗ることです。この塗装工事ですが、簡単そうに見えて、実は外装工事のなかでもっとも奥が深く、難易度も非常に高い工事であると身を持って知りました。塗る対象物により材料の成分も異なり、用途によって工法も違います。

さらに無足場工法では、相当な困難を極める技術が求められるなど、大きな壁にぶつかりました。いくつかの項目に分けて説明していきます。

建物への大きな被害を防ぐ、重要な調査

塗装面の調査は、たいがい外壁タイルの打診調査時について行うことが多く、タイル打診の際、接合する塗装面の状態を簡易的に確認することが通例です。塗装面だけを調査する事例は、外壁面から漏水があった場合にお客様からの要請で実施する程度で、塗装面の調査のみを単体で行うことはほとんどありません。

調査の概念からいえば、塗装面の調査は非常に重要度が低いのが現状です。それは、美観的要素が強く、タイルのような剥落や漏水原因につながりにくいことが要因と思われます。また、塗装については耐用年数がおおよそ決まっており、改修する判断をしやすいことも挙げられます。

しかし実際に調査してみると、劣化が進行して建物に大きな被害をもたらすようなケースもあるなど、とても重要な調査であることがわかります。

塗装面の劣化症状「チョーキング」

続いて、不具合箇所の事例をご紹介します。

写真1の塗装面を触診すると、写真2のように、チョークのような粉状のものが付着するのが確認できます。この症状をチョーキングといいます。

チョーキングとは、太陽光からの熱や風雨によるケイ素化合物（土砂）によって外壁が劣化している現象のことです。太陽光による熱や風雨は自然現象で、遮断することはできませんので、経年により外

チョーキングの事例



▲ (写真1)
塗装された外壁および雨水管



◀ (写真2)
塗装面に触れると、指先に粉状のものがつく

